

# 牛久：学校周辺に見る自然

第17号 ひたち野うしく小

2012年7月17日発行

＜ 梅雨<sup>つゆ</sup>の水辺公園 ～動物のすがたを観察しました。その④. アブラムシをめぐって ＞  
ひたち野うしく小3年生との水辺公園シリーズ。今回は、アブラムシとそこに集まる虫たちのお話。



このテーマについては、22年度10, 11号でくわしく触<sup>ふ</sup>れていますので、そちらを参考<sup>さんこう</sup>にしてください。今回は、今年の観察の中で皆さんが見つけたもの<sup>しょうかい</sup>のみ紹介<sup>しょうかい</sup>します。

左は、アキノノゲシの葉<sup>は</sup>にびっしりとついていて、タイワンヒゲナガアブラムシです。まっ赤<sup>あか</sup>ですね。北海道から九州にまで分布<sup>ぶんぷ</sup>し、レタスの害虫<sup>がいちゅう</sup>として知られているようです。同じキク科のセイタカアワダチソウにも、よく似たセイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシという赤いアブラムシ<sup>あか</sup>がつかますが、腹部<sup>ふくぶ</sup>に黒い帯<sup>おび</sup>のようなものがあることで、そちらとは区別<sup>くべつ</sup>できます。



**赤い体に、黒い帯が特徴のタイワンヒゲナガアブラムシ。レタスの害虫としても知られる。**



ヒメガマのアブラムシを食べる、ナナホシテントウ。

アブラムシがいると、テントウムシが集ま<sup>あ</sup>ります。テントウムシは、成虫<sup>せいちゅう</sup>も幼虫<sup>ようちゅう</sup>もアブラムシをつかま<sup>つかま</sup>えて食べるのですね。



ハコネウツギのアブラムシを食べる、ナミテントウの幼虫。



最後に、おなじみのエゴノネコアシ。エゴノキの芽<sup>め</sup>にアブラムシが寄生<sup>きせい</sup>してできる虫こぶですが、外にいたアブラムシにアリが集ま<sup>あ</sup>っていました。そう、アブラムシがおしりから出す甘い汁<sup>あまいしる</sup>をなめにやってくるのです。アリはアブラムシを食べるテントウムシを追いは<sup>お</sup>うるので、助け合<sup>あ</sup>っているように見えますが、実はそのよう<sup>じつは</sup>な関係<sup>かんけい</sup>をもつものは少数派<sup>しょうすうは</sup>なのだそう<sup>です</sup>。【理科支援員：宮内】



アブラムシに集まるアリ(左)と、お尻から甘い汁を出すアブラムシ(右)。